



Trend Micro Mobile Security Migration Tool 使用手順書

トレンドマイクロ株式会社

=====
Copyright (c) 2014 Trend Micro Incorporated. All Rights Reserved.

- ・本ドキュメントに関する著作権は、トレンドマイクロ株式会社へ独占的に帰属します。
 - ・本ドキュメントの作成にあたっては細心の注意を払っていますが、本ドキュメントの記述に誤りや欠落があってもトレンドマイクロ株式会社はいかなる責任も負わないものとします。
 - ・本ドキュメントおよびその記述内容は予告なしに変更されることがあります。
 - ・TRENDMICRO、ウイルスバスターは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
 - ・本ドキュメントに記載されている各社の社名、製品名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。
- =====

改訂履歴

版数	発行日	改訂履歴
第 1 版	2014/03/05	初版発行
第 2 版	2014/09/16	第 2 版発行

はじめに

■本ガイドの目的

Trend Micro Mobile Security（以下、TMMS）には、以下の 2 種類があります。

1. ウイルスバスター コーポレートエディションのプラグイン製品
※ バージョン：7.0 / 7.1 Service Pack 1 / 7.1 Service Pack 2 / 8.0 / 8.0 Service Pack 1
2. スタンドアロン型
※ バージョン：9.0 Patch 1

ウイルスバスターコーポレートエディションのプラグイン製品である TMMS からスタンドアロン型である TMMS ヘサーバの設定を移行する場合は、専用のツールを使用する必要があります。本資料では、ツールの使用方法ならびに設定の移行手順について記載しております。

◆効果

本資料を参照していただくことにより、以下の効果が見込まれます。

- ・ 設定の移行前の注意事項を把握できる
- ・ 移行ツールの使用方法を理解できる

目次

1	事前準備	4
1-1.	Migration Tool とは	4
1-2.	Migration Tool の使用における確認事項.....	4
1-3.	Sqkcmd ツールのインストール.....	7
2	Trend Micro Mobile Security 8.0 Service Pack 1 の設定をバックアップ	10
2-1.	データベースと設定ファイルのバックアップ	10
2-2.	SSL 証明書のバックアップ (オプション)	12
3	バックアップファイルの移行.....	16
3-1.	データベースと設定ファイルの移行.....	16
4.	Trend Micro Mobile Security 8.0 Service Pack 1 の設定をリストア	17
4.1.	Trend Micro Mobile Security 9.0 Patch 1 の構築	17
4.2.	データベースと設定ファイルのリストア.....	19

1. 事前準備

1-1. Migration Tool とは

本ツールを使用することで、以下のこと実施できます。

- A) プラグイン製品の TMMS で使用していたサーバの設定をスタンドアロンの TMMS へ移行することができます。
- B) 設定を移行後、Android ならびに iOS 端末にアップグレードの通知が表示され、アップグレードを実施することができます。
※デバイス側で、TMMS クライアントの再インストールやプロファイルの再インストールは必要ありません。

1-2. Migration Tool の使用における確認事項

本ツールを使用する場合は、以下の確認事項を必ずご確認ください。

- A) 本ツールの使用については、TMMS 8.0 Service Pack 1 から TMMS 9.0 Patch 1 のローカルコミュニケーションサーバを使用している環境へのみ、サポートしています。
以下 3 つの条件に 1 つでも合致する場合は、本ツールを使用することはできませんので、該当する場合は、各対処方法をご確認ください。
 - 1. TMMS のバージョン 8.0 以下のサーバ環境を使用している
 - 2. TMMS 9.0(Patch 適用なし)の環境へ移行する
 - 3. TMMS 9.0 以降の環境で、クラウドコミュニケーションサーバを使用する

1 に該当する場合の対処方法：

TMMS 8.0 Service Pack 1 のサーバへアップグレードして下さい。

TMMS クライアントは、TMMS 8.0 のバージョンでも本ツールを使用できます。

※TMMS クライアントが TMMS 7.x のバージョンの場合は、サポートしておりません。

※iOS 6.0 以降において、TMMS クライアント 8.0 のバージョンから TMMS クライアント 9.0 Patch 1 へバージョンアップする場合、既知の問題により以下の制限があります。

制限 1: TMMS 9.0 Patch 1 へ移行後、アップグレードを求める通知が表示されません。
そのため、TMMS クライアントを Apple Store から手動でインストールする
必要があります。

制限 2: TMMS 9.0 Patch 1 へ移行後、Apple Store や TMMS のエンタープライズアプ
リストアからのアプリケーションプッシュが機能しません。
ただし、TMMS のエンタープライズアプリストアからアプリケーションをインス
トールすることはできます。この問題を解決するには、デバイスを再登録して
プロファイルをインストールしなおす必要があります。

そのため、TMMS クライアントを TMMS 8.0 Service Pack 1 へアップグレードして
いただくことをお勧めいたします。

アップグレード方法については、下記 FAQ をご参照ください。

※Trend Micro Mobile Security のサーバアップグレード手順

<http://esupport.trendmicro.com/solution/ja-jp/1096537.aspx>

2 に該当する場合の対処方法：

TMMS 9.0 Patch 1 を適用して下さい。

Patch 1 については、弊社の最新版ダウンロードページよりダウンロードできます。

ダウンロードページ：[最新版ダウンロードページ](#)

3 に該当する場合の対処方法：

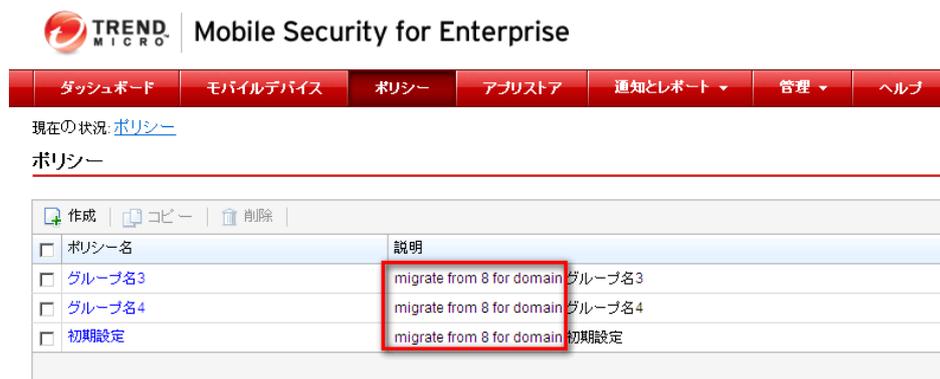
クラウドコミュニケーションサーバを使用する場合、本ツールを使用することはできま
せん。そのため、ローカルコミュニケーションサーバでの運用をご検討ください。

クラウドコミュニケーションサーバを使用する場合は、設定の再設定や TMMS クライア
ントの再インストールが必要となります。

B) TMMS 9.0 Patch 1 のローカルコミュニケーションサーバを使用する場合、サーバのアド
レスとポート番号が TMMS 8.0 Service Pack 1 のローカルコミュニケーションサーバと同
一である必要があります。

※TMMS 8.0 Service Pack 1 の管理コンソールへログインし、[プラグインマネージャ] を
選択し、[管理] タブ配下の[ポリシーサーバの設定] 画面にてご確認ください。

- C) TMMS 8.0 Service Pack 1 と TMMS 9.0 Patch 1 の環境で、別の SQL Server を使用する
場合、設定を復元できることを予め確認してください。
※別の SQL Server を使用する場合、使用しているユーザ名、パスワードは同じ必要があ
ります。
- D) TMMS 8.0 Service Pack 1 がインストールされているサーバに TMMS 9.0 Patch 1 をイン
ストールする場合、バックアップファイルを取得後、TMMS 8.0 Service Pack 1 をアンイ
ンストールする必要があります。
アンインストール後、TMMS 9.0 Patch 1 をインストールします。
- E) Migration Tool を使用して設定を移行した場合、管理コンソールのポリシーの画面に
以下の英語が表示されます。本事象は、既知の制限事項となります。



TREND MICRO | Mobile Security for Enterprise

ダッシュボード | モバイルデバイス | **ポリシー** | アプリストア | 通知とレポート ▾ | 管理 ▾ | ヘルプ

現在の状況: [ポリシー](#)

ポリシー

作成 コピー 削除	ポリシー名	説明
<input type="checkbox"/>	グループ名3	migrate from 8 for domain グループ名3
<input type="checkbox"/>	グループ名4	migrate from 8 for domain グループ名4
<input type="checkbox"/>	初期設定	migrate from 8 for domain 初期設定



1-3. Sqkcmd ツールのインストール

マイグレーションツールを使用する前に、以下 2 つのツールをバックアップおよびリストアするサーバへインストールする必要があります。

- A) Microsoft SQL Server Native Client (sqlncli.msi)
- B) Microsoft Command Line Utilities for SQL Server (SqlCmdLnUtils.msi)

Windows Server 2003/2008/2008 R2 を使用している場合は、以下のダウンロードページからダウンロードしてください。

Microsoft SQL Server Native Client :

- X86: <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=188400&clcid=0x409>
- X64: <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=188401&clcid=0x409>

Microsoft SQL Command Line Utilities :

- X86: <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=188429&clcid=0x409>
- X64: <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=188430&clcid=0x409>

Windows Server 2012 を使用している場合は、以下のダウンロードページからダウンロードしてください。

Microsoft SQL Server Native Client :

- X86: <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=239647&clcid=0x409>
- X64: <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=239648&clcid=0x409>

Microsoft SQL Server Command Line Utilities :

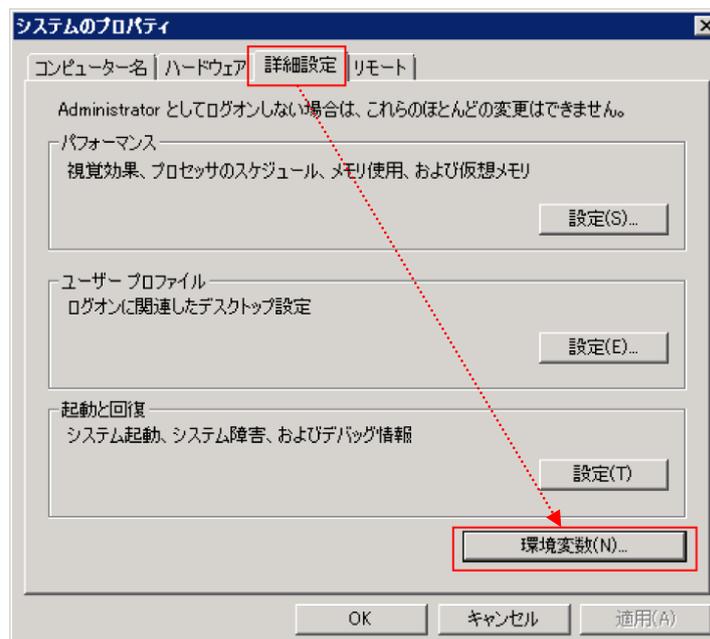
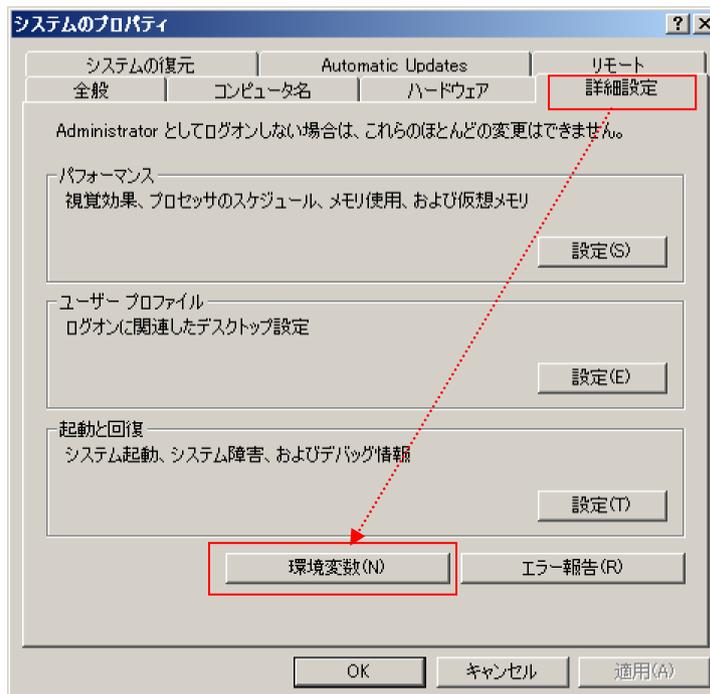
- X86: <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=239649&clcid=0x409>
- X64: <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkID=239650&clcid=0x409>

各ツールのインストール方法等は Microsoft 社の情報をご参照ください。

注意 : Windows Server 2003 または 2008 に上記ツールをインストールした場合は、インストール終了後、「sqlcmd.exe」の環境変数を手動で追加する必要があります。追加の手順は、次の通りです。

【環境変数を手動で追加する手順】

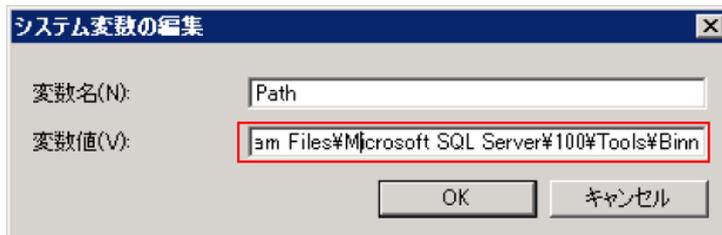
1. スタートメニューより、[マイ コンピュータ] (または[コンピュータ]) を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
2. [詳細設定] (または[システムの詳細設定] → [詳細設定]) を選択し、[環境変数] をクリックします。



3. 「システム環境変数」のセクションで、[Path] を選択し、[編集] をクリックします。



4. 「sqlcmd.exe」が配置されているフォルダの絶対パスを追加します。



2. Trend Micro Mobile Security 8.0 Service Pack 1 の設定をバックアップ

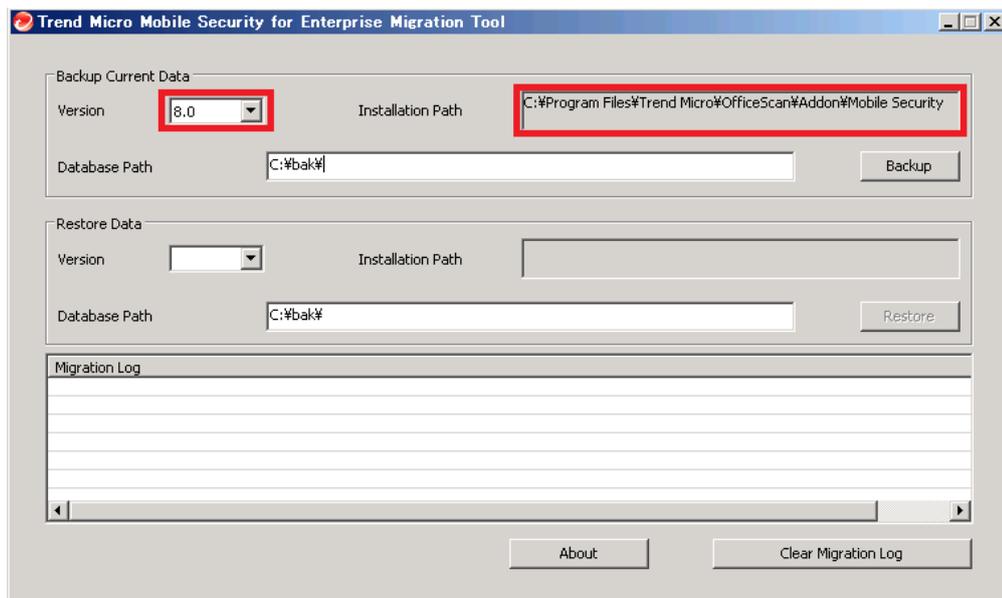
2-1. データベースと設定ファイルのバックアップ

以下の手順より、Migration Tool を使用して TMMS 8.0 Service Pack 1 のデータベースと設定のバックアップを取得します。

Migration Tool については、弊社の最新版ダウンロードページよりダウンロードしてください。

ダウンロードページ： [最新版ダウンロードページ](#)

1. TMMS 8.0 Service Pack 1 のマネージメントサーバをインストールしているサーバで、システムドライブ配下に Migration Tool の圧縮ファイルを解凍します。
例) C:\migration
2. migration フォルダ配下にある「Migration.exe」を選択し実行します。
3. Migration Tool が起動したら、「現在のデータバックアップ」セクションの [バージョン] のリストから「8.0」を選択します。
マネージメントサーバが正しくインストールされている場合、[インストールパス]は、バージョンを選択後に自動で入力されます。

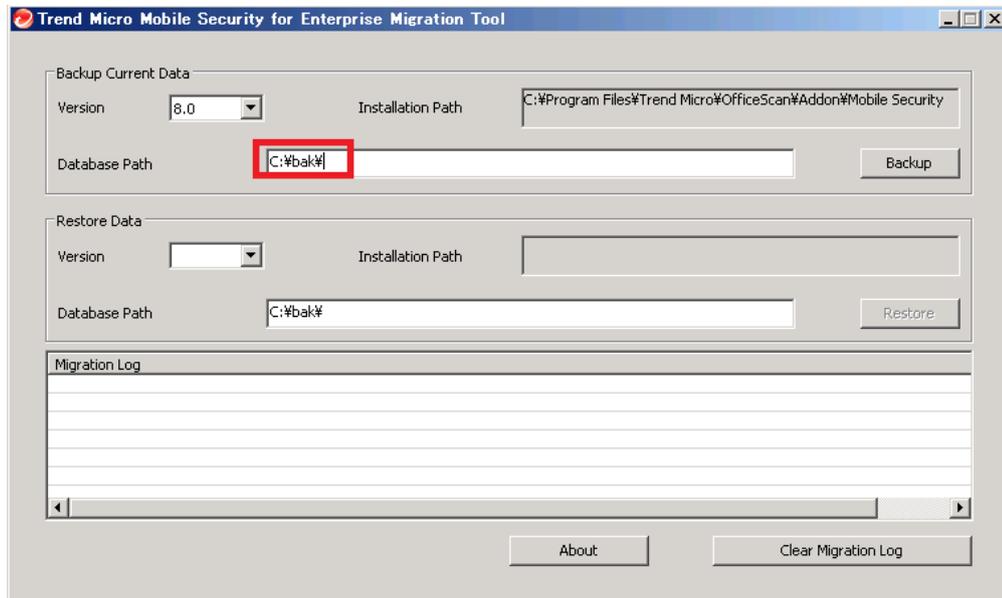


4. データベースのバックアップを保存するパスを設定します。

同一サーバ上にバックアップ用フォルダを作成し、指定してください。

例) システムドライブ配下にデータベースのバックアップを保存する「bak」フォルダを作成した場合は、以下のパスを入力します。

C:¥bak¥

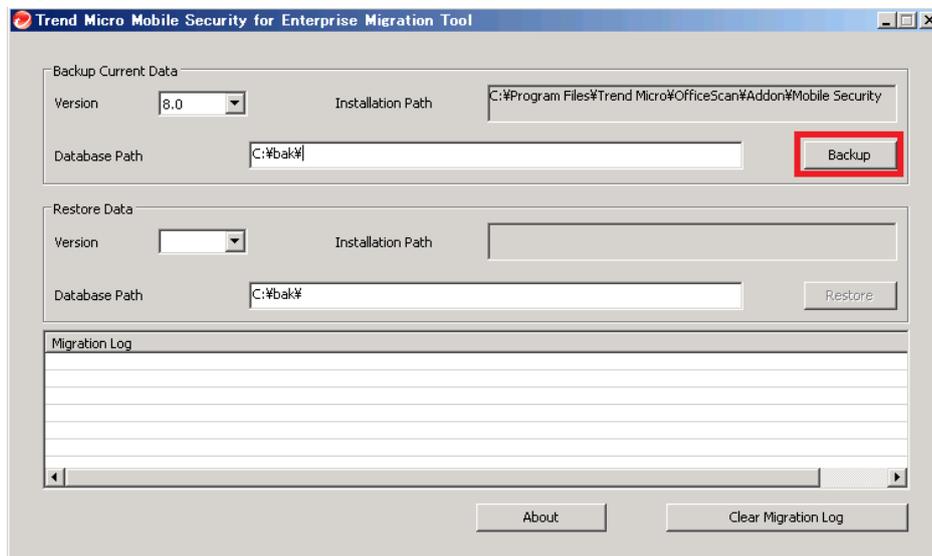


5. [バックアップ] ボタンをクリックします。バックアップが終了するとデータベースと設定ファイルは以下のパスに保存されます。

※作成されたファイルのファイル名は変更しないでください。

データベースのバックアップ：手順4で入力したパスにデータベースが保存されます。

設定ファイル：Migration Toolのフォルダ（migration）配下に「bak」フォルダが作成され、その中に保存されます。



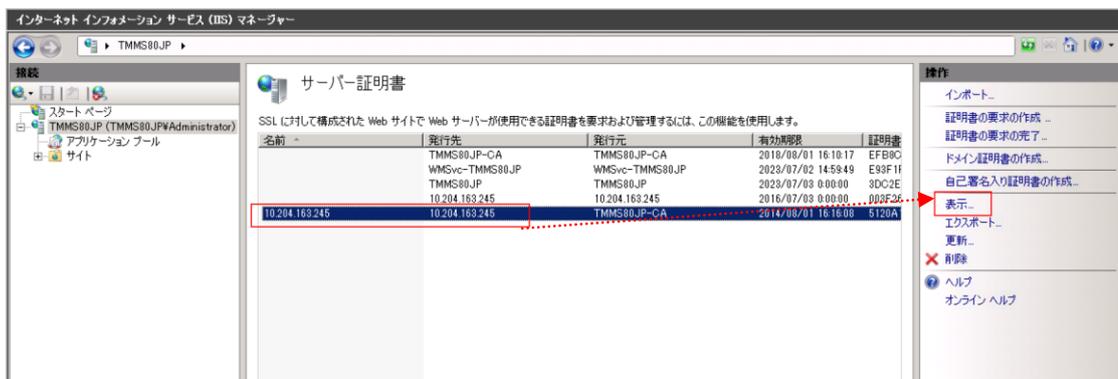
2-2. SSL 証明書のバックアップ (オプション)

TMMS 8.0 Service Pack 1 の環境で SSL 証明書の設定を実施した場合は、SSL 証明書を以下の手順でエクスポートする必要があります。

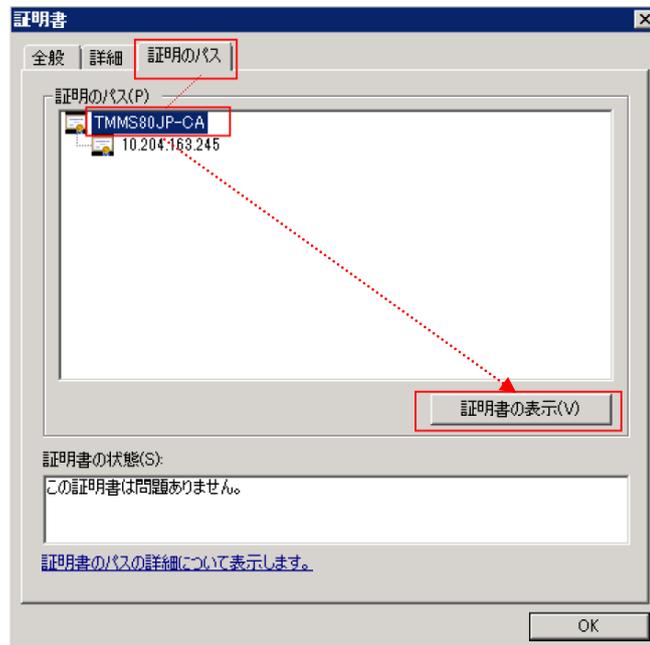
1. TMMS 8.0 Service Pack 1 のコミュニケーションサーバをインストールしているサーバで、インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャーを開きます。
2. [スタートページ] 配下にある「サーバ名」を選択し、[サーバの証明書]をクリックします。



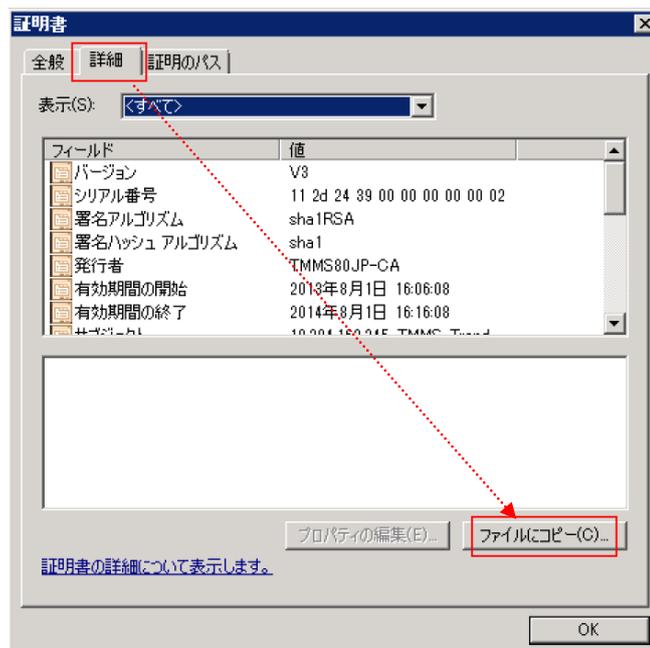
3. TMMS 8.0 Service Pack 1 のコミュニケーションサーバを選択し、[表示] をクリックします。



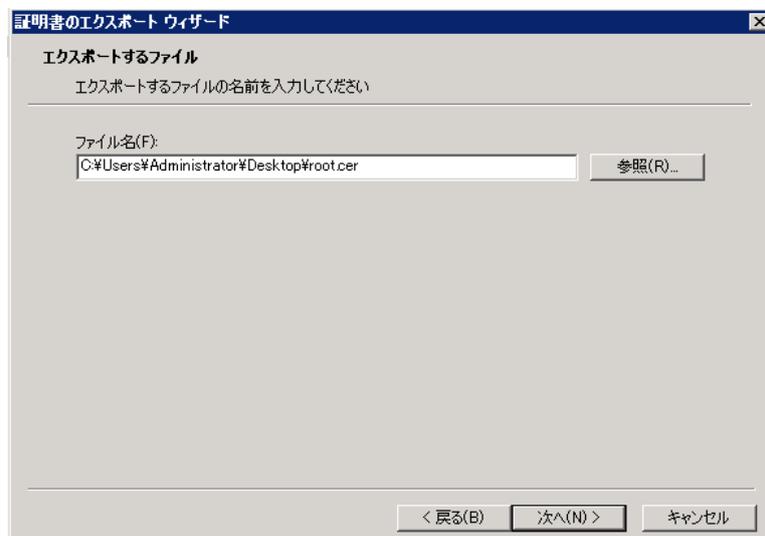
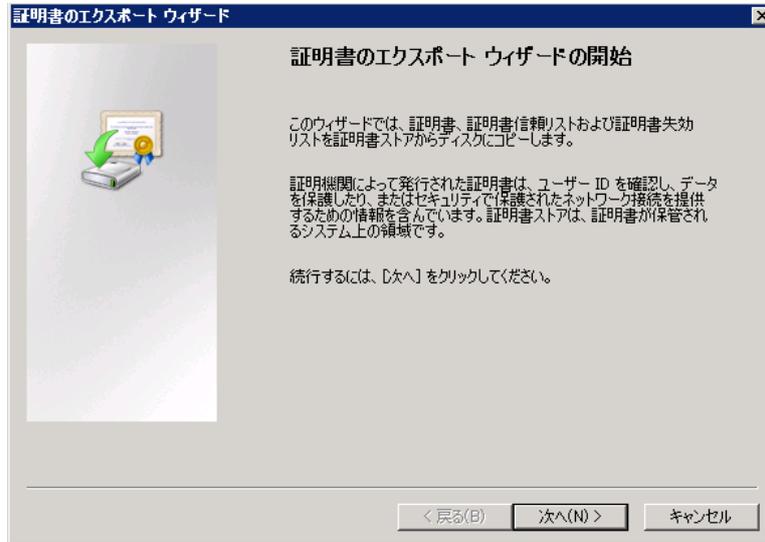
4. [証明書のパス] タブを選択し、iOS デバイスで使用する CA 証明書を選択します。
その後、[証明書の表示] をクリックします。



5. [詳細] タブに移動し、[ファイルにコピー] をクリックします。



6. 証明書のエクスポートウィザードの初期設定に従って、証明書をエクスポートします。



7. TMMS 8.0 Service Pack 1 のコミュニケーションの証明書を選択し、[エクスポート] をクリックします。



8. パスワードを設定し、[OK] をクリックします。

3 バックアップファイルの移行

3-1. データベースと設定ファイルの移行

TMMS 8.0 Service Pack 1 で取得したデータベースと設定ファイルは、TMMS 9.0 Patch 1 ならびに使用する SQL サーバにコピーする必要があります。以下にそれぞれの場合を記載致します。

A) TMMS 8.0 Service Pack 1 と同一のサーバに TMMS 9.0 Patch 1 を導入する場合、バックアップを取得後、TMMS 8.0 Service Pack 1 をアンインストールして下さい。

B) TMMS 8.0 Service Pack1 と別のサーバに TMMS 9.0 Patch1 を導入する場合、取得したデータベースと設定ファイルならびに使用した Migration Tool を別のサーバにコピーします。

※別の SQL Server を使用する場合、使用しているユーザ名、パスワードは同じにする必要があります。

4. Trend Micro Mobile Security 8.0 Service Pack1 の設定をリストア

4.1. Trend Micro Mobile Security 9.0 Patch1 の構築

TMMS 9.0 Patch1 の環境を構築します。TMMS 9.0 Patch1 のインストールモジュールならびに「インストールおよびクライアント配信ガイド」を、弊社の最新版ダウンロードページよりダウンロードしてください。以下に、TMMS 9.0 Patch1 を構築する際の注意事項を記載致します。

- A) 同じ SQL Server を使用する場合は、マネージメントサーバの構築時に新しい名前のデータベースを作成する必要があります。

別の SQL Server を使用する場合は、SQL Server の構築時に使用しているユーザ名、パスワードを同じにする必要があります。

- B) TMMS 9.0 Patch1 のコミュニケーションサーバは、ローカルコミュニケーションサーバを選択する必要があります。

※クラウドコミュニケーションサーバはサポートしておりません。

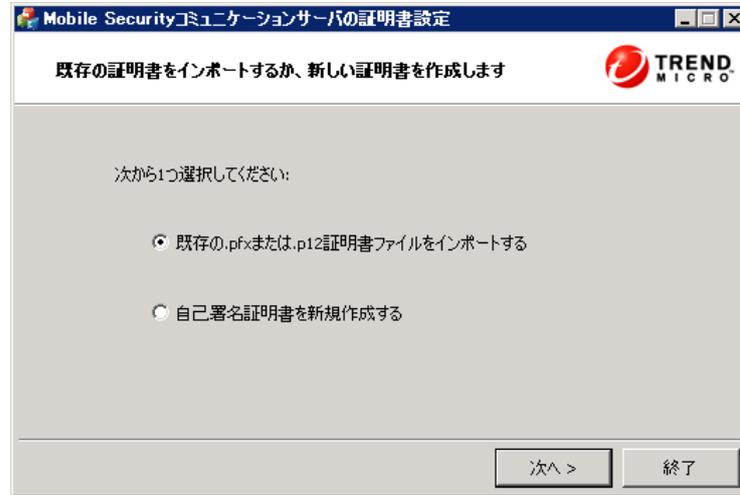
- C) ローカルコミュニケーションサーバのアドレスとポート番号が TMMS8.0 Service Pack1 のローカルコミュニケーションサーバと同一である必要があります。

- D) TMMS 8.0 Service Pack1 のコミュニケーションサーバをインストールしていたコンピュータに TMMS 9.0 Patch1 のコミュニケーションサーバインストールする場合は、TMMS 8.0 Service Pack1 のコミュニケーションサーバを先にアンインストールする必要があります。

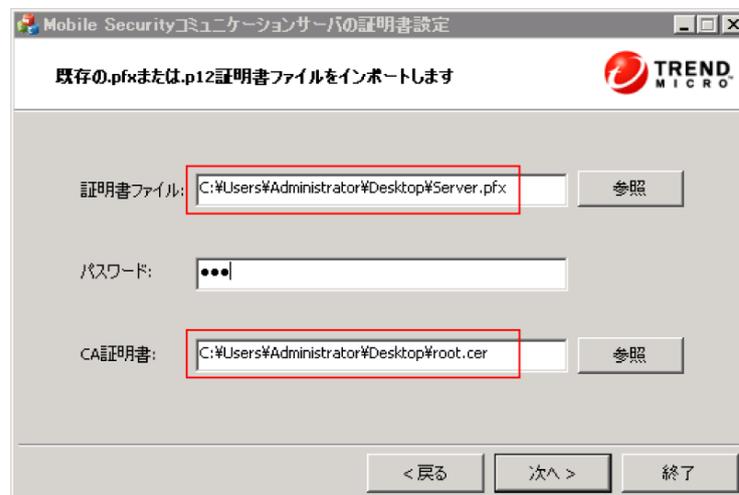
※TMMS 8.0 Service Pack1 のコミュニケーションサーバで「既定の Web サイト」を使用していた場合は、アンインストール後に IIS のサービスまたは IIS マネージャにて「既定の Web サイト」を停止する必要があります。

- E) 手順 2-2 で、SSL 証明書のバックアップを取得した場合は、ローカルコミュニケーションサーバのインストール時に以下の手順でインポートする必要があります。

1. 以下のインストールウィザードが表示された際に、「既存の pfx または p12 証明書ファイルをインポートする」を選択します。



2. [証明書ファイル] ならびに [CA 証明書] の欄に手順 2-2 でエクスポートしたファイルを選択し、パスワードを入力します。

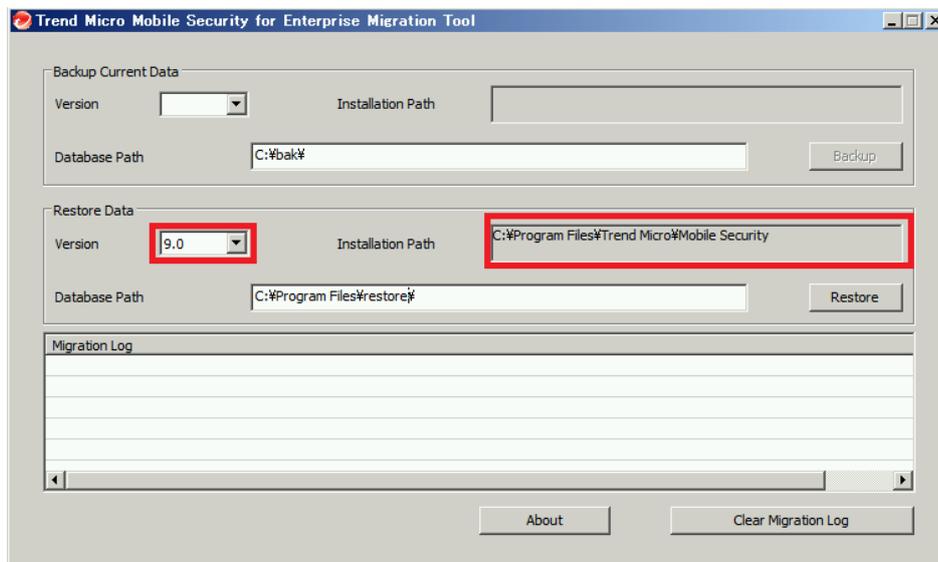


3. 証明書のインポートならびにローカルコミュニケーションサーバをインストールした後、サーバを再起動します。

4.2. データベースと設定ファイルのリストア

以下の手順より、Migration Tool を使用して TMMS 8.0 Service Pack 1 のデータベースと設定のリストアを実施します。

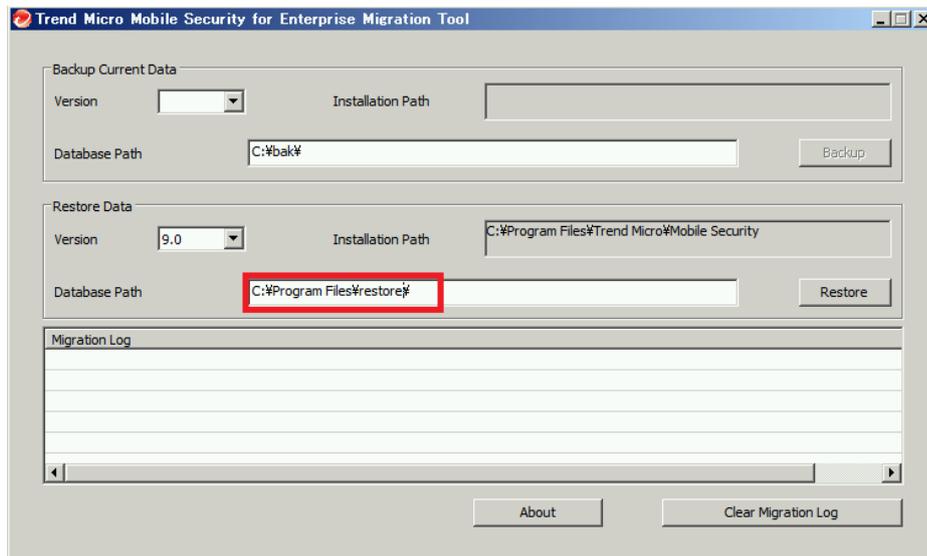
- A) TMMS 9.0 Patch 1 のマネージメントサーバをインストールしているサーバで、システムドライブ配下に手順 2-1 で取得した Migration Tool のフォルダ配置します。
例) C:\migration
- B) migration フォルダ配下にある「Migration.exe」を選択し実行します。
- C) Migration Tool が起動したら、[データの復元] セクションの [バージョン] リストから [9.0] を選択します。
マネージメントサーバが正しくインストールされている場合、[インストールパス] は、バージョン選択後に自動で入力されます。



D) 手順 2-1 で取得したバックアップファイルを保存するフォルダを作成し、そのフォルダ内にデータベースのバックアップファイルを配置します。

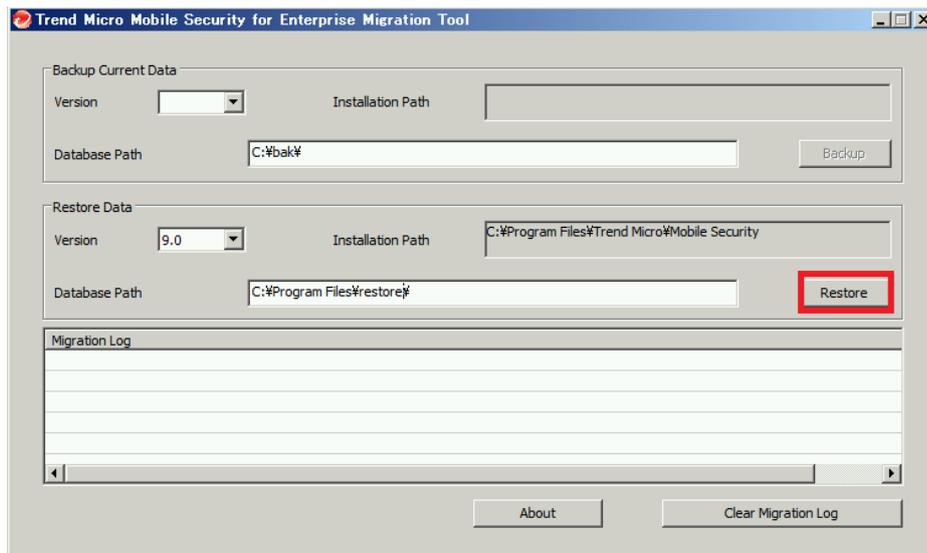
※リストア後、入力したフォルダにデータベースのファイルが作成されます。

例) C:\Program Files\restore\



E) [復元] をクリックします。

復元実施中に、除外およびロールバックに使用するためのデータベースバックアップファイルがデータベースサーバに生成されます。



F) 移行完了後、TMMS 8.0 Service Pack 1 がインストールされている Android ならびに iOS 端末にアップデート/アップグレードの通知が送信されます。